

北海道日本ハムファイターズの本拠地移転の目的と効果

スポーツ科学専攻 スポーツビジネス研究領域

5023A070-0 山崎 来夢

研究指導教員：武藤 泰明 教授

【背景】

近年、日本プロ野球の競技レベルは向上しており、MLB 球団所属選手が数多く参加した 2023WBC では見事優勝を果たし、NPB 球団所属の選手も数多く活躍した。その一方、MLB との市場規模の差は拡大し続けている。NPB 球団の経営を圧迫しているのは球場運営にかかる諸費用であり、改善のためにこれまで多くの NPB 球団が本拠地の管理運営権の獲得を行ってきた。北海道日本ハムファイターズも例外ではない。ただ、北海道日本ハムファイターズは単なる本拠地の管理運営権の獲得ではなく、球場の建設による本拠地の所有を選択した。加えて、球場の建設地は、それまで本拠地のあった札幌市ではなく、人口 5 万人程度の北広島市である。これには疑問の声も少なくなかった。

先行研究では、エスコンフィールド HOKKAIDO を建築物として研究対象とした研究はいくつか散見されるものの、北海道日本ハムの本拠地移転の目的や効果を研究対象とした研究は行われていない。

【目的】

本研究の目的は、北海道日本ハムファイターズが札幌ドームからエスコンフィールド HOKKAIDO へと本拠地移転した目的とその効果について評価することである。

【仮説の設定】

株式会社ファイターズ スポーツ & エンターテインメントは移転初年度の目標値として、次の三点が掲げていた。

- ・年間来場者数 300 万人
- ・売上高 234 億円
- ・営業利益 26 億円

中でも年間来場者 300 万人については、試合観戦を目的とした観客動員では、達成できない数値となっており、非試合日の来場者の獲得を目指していることがうかがえる。

これらを踏まえ、本拠地移転には三つの目的があると仮説を立てた。一つ目は、非試合日の収益拡大である。観客動員数には限界があり、非試合日の集客が実現できれば大幅な増収が見込める。これが本拠地移転の最重要目的である。二つ目は、球場移転に伴う費用削減と収益増加である。本拠地移転前は球場運営にかかる諸費用が経営を圧迫しており、そこからの解放を目指している。三つ目は、チーム強化である。野球チームである以上追い求めるところである。本拠地移転により収益を増加させ、十分な補強費をチームに還元する必要がある。

【方法】

本研究では、北海道日本ハムファイターズとエスコンフィールド HOKKAIDO 及び F ビレッジを対象としたケーススタディを以下の手順に沿って進める。

- 1.現在の経営体制と経営資源
- 2.本拠地移転前後の財務状況
- 3.本拠地移転前後の実績
- 4.本仮説についての考察と評価

【結果】

1.現在の経営体制と経営資源

現在、北海道日本ハムファイターズはチーム管理とその他ビジネスについて二社に分かれて活動しており、スタジアムについては新千歳空港と JR 札幌駅の間に位置している。

2.本拠地移転の目的についての仮説

本拠地移転には三つの目的があると仮説を立てた。一つ目は、非試合日の収益拡大である。観客動員数には限界があり、非試合日の集客が実現できれば大幅な増収が見込める。これが本拠地移転の最重要目的である。二つ目は、球場移転に伴う費用削減と収益増加である。本拠地移転前は球場運営にかかる諸費用が経営を圧迫しており、そこからの解放を目指している。三つ目は、チーム強化である。

3.本拠地移転前後の財務状況

株式会社北海道日本ハムファイターズ及び株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメントの財務状況は非常に良好であり、利益体質だと言える。また、球場使用に伴う 20 億円強の費用削減に成功している。

4.本拠地移転前後の実績

観客動員率を大きく改善させており、北海道日本ハムファイターズの試合観戦の価値の上昇がみられる。また、FA 補強を積極的に行いながら、現状の戦力の流出を防ぐ等、十分な予算を持てるようになった。

【考察】

・非試合日の収益拡大

開業初年度となる 2023 年、年間 150 万人の非試合観戦来場者の集客に成功しており、目標を優に上回る結果となった。成功の要因として、F ビレッジの『行楽地化』が挙げられる。道内来場者のみならず、道外・国外来場者を含めたスポーツコミュニティの創出へと舵を切ったことにより、道外からも年間 100 万人の来場者を獲得するなど、想像をはるかに上回るスタートダッシュとなった。

・球場移転に伴う費用削減と収益増加

年間 20 億円強の球場使用料とそれに伴う費用の削減に成功した。また、球場移転に伴い、球場広告収入と飲食収入を得られるようになった。他にも不動産関連収入が生まれるなど、従来のプロ野球チームでは、実現できないほど様々な収入源を確保しており、今後の収益拡大可能性と安定性を確保することに成功している。

・チーム強化

大規模なチームの若返りと戦力整理を行うと同時に、積極的な FA などの戦力補強をすることにも成功した。また、必要な戦力に資金を使える状態となったため、長期的に強力なチームづくりを実現した。

【結論】

「非試合日の利益拡大」「球場移転に伴う費用削減と収益増加」の二つの目的について、既に多くの改善が見られた。「チーム強化」については、チーム再建中ということもあり、まだ大きな改善は見られなかったものの、長期的に強力なチームづくりを実現させるための基礎は出来てきている。こうしたことから、本拠地移転の目的は順調に達成されていっており、今後も F ビレッジの『街化』やチームの成績向上により、大きな飛躍が期待できる。